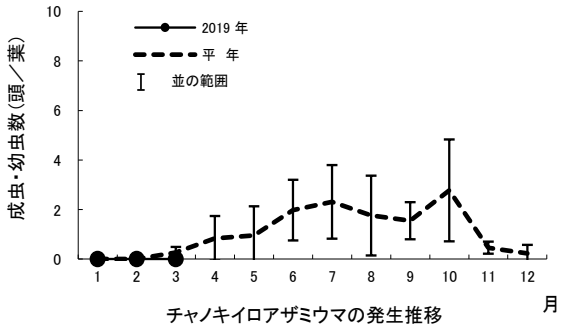
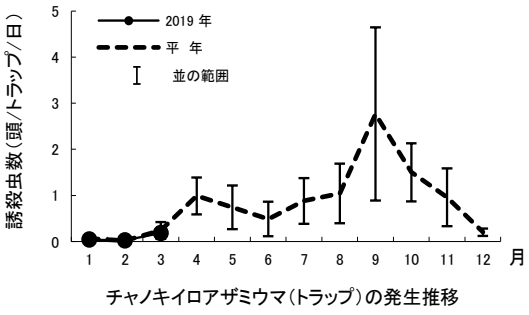
平成　31 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
3 月の発生量（現況）	ややや少		
4 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、３月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



チャノキイロアザミウマの発生推移



チャノキイロアザミウマ（トラップ）の発生推移

- 調査地域：石垣市
- 新葉あたり成虫・幼虫数（頭/葉）：0（前年0.1未満、平年0.3、判定「やや少」）
- 黄色粘着トラップ誘殺虫数（頭/日）：0.2（前年0.2、平年0.2、判定「並」）

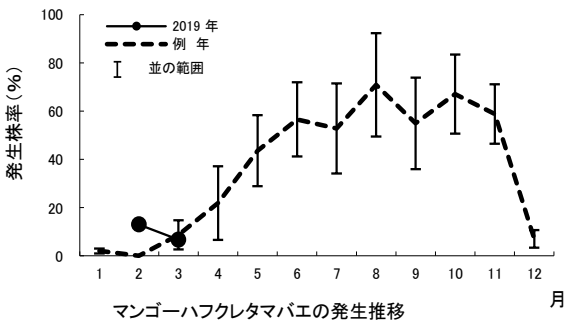
防除のポイント

・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・不要な新梢は、施設外に除去する。

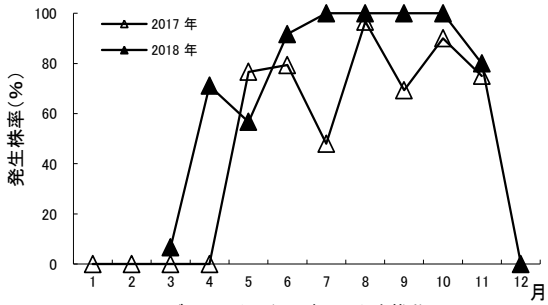
平成　31 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
3 月の発生量（現況）	並		
4 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

・　調査地域：石垣市
・　発生株率（%）：6.7（前年6.7、平年8.7、判定「並」）

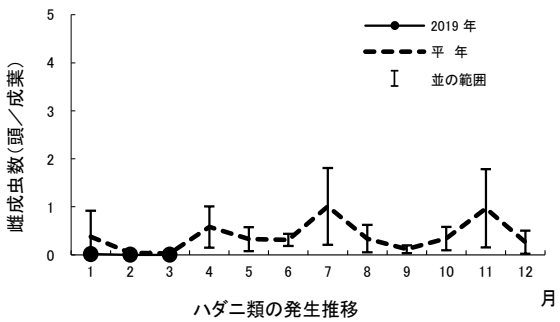
防除のポイント

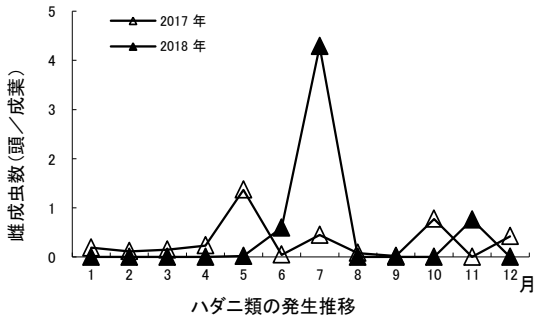
・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

平成　31 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
3 月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
4 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、３月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）





- 調査地域：石垣市
- 成葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0（前年0、平年0.1未満、判定「やや少」）
- 新葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0（前年0）

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・春、夏、秋の年３回程度発生ピークが見られるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。